

きときとの仲間たち

2026.10.17 土

高志の国文学館ライブラリーコーナー

14:00～15:30
(受付開始13:30)

演題 越中立山と地獄の世界

越中立山は、古くから地獄が存在する山として知られ、平安時代の説話にも、日本に生まれた人々が生前に罪を作ると、死後には立山の地獄に堕ちると記されています。

厳しい責め苦を受けつづける地獄の世界に堕ちてしまわないように、かつて立山山麓の宗教者たちが全国に広めた、人々を救うためのあの手の方法とは何か、文化史的背景とともに紹介します。

文化庁 民俗文化財部門調査官
かとうもとき

加藤 基樹 氏

1975年生まれ。大谷大学文学部歴史学科任期制助教、富山県「立山博物館」学芸員を経て、現在、文化庁参事官(伝統文化・生活文化担当)付民俗文化財部門調査官。山の信仰や地獄思想に基づく人々の信仰文化に関心があり、立山信仰史を中心に調査・研究を行う。近年は、全国に伝わる祭りや行事、民間信仰、食文化など、我が国の先人たちが集団的に伝承してきた慣習や技術などについて幅広く調査・研究している。



参加申込はこちら！

<https://shinsei.pref.toyama.lg.jp/SksJuminWeb/EntryForm?id=RfJjG0Ff>

電話・WEB申込フォームにて、氏名・電話番号をお知らせください。
定員に達し次第募集を終了します。

